約束3
テクニック2

心が動いたことを書こう

3年生〜

「黒板マネロボット」にならない

キミが1年生、2年生なら、学校の先生が教えてくれるとおりにノートを書いてください。ノートの書き方をいちから学ぶことができます。

でも、3年生以上になったら、注意してほしいことがあります。それは、黒板の内容を何も考えずに、ただ写し続ける「黒板マネロボット」になったらダメ！　ということです。

先生は黒板に、みんなに覚えてほしいことや考えてほしいことを書いています。それを何も考えずにノートに写していては、頭に残りません。

心が動いたことも書く

授業で教えてもらったことが頭に残るようにノートを書くには、授業中に心が動いたことをノートにどんどん書いてほしいのです。

授業中、いろんなことを考えたり感じたりしていると思います。

黒板を見て、先生のお話を聞いて「なるほど」と思ったり、「よくわからないな」と思ったり。また、友だちの意見を聞いて、「同じだ」とうれしくなったり、「違う意見だ」と反対したくなったり。

そんなときこそ、その思いをノートに書くのです。

そうすることで、勉強していることをもっと理解できたり、キミが考えていることを整理できたりします。ノートに書いていけないことなんてないのです。

おうちの方へ　黒板の内容以外にも、心の動きを書く

人は、書くことで自分の考えを可視化していきます。それは、お子さまも同じです。書くことで、自分の考え方を表現する力をつけていきます。

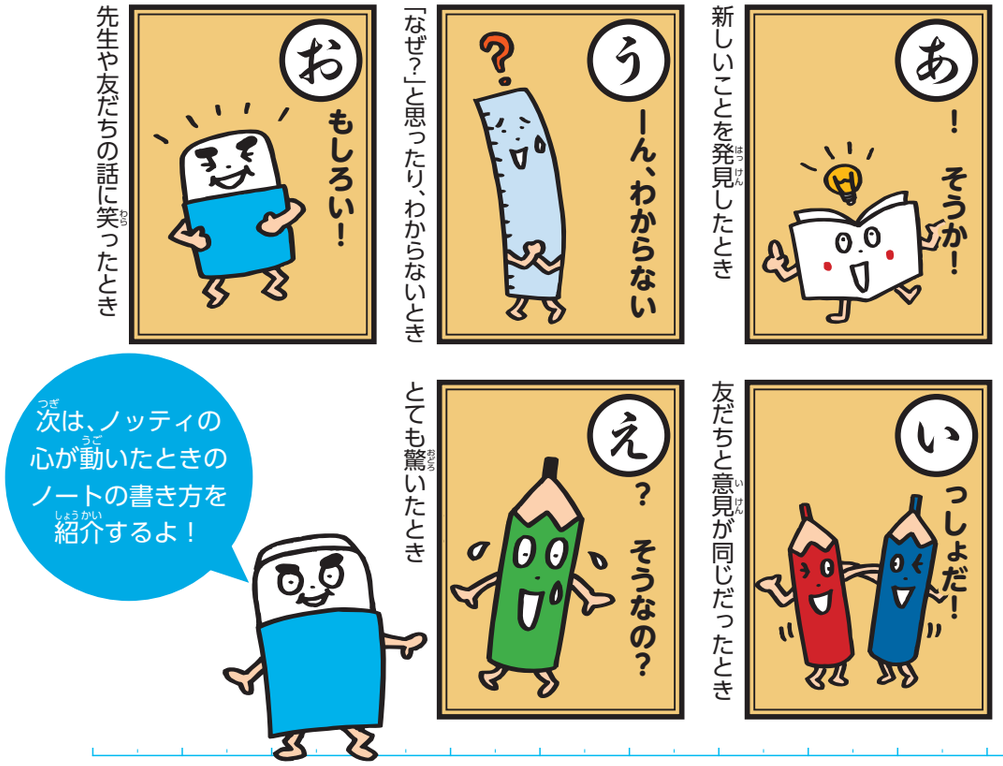
黒板さえ書けばいいという思いで授業にのぞんでいては、思考がストップしてしまい、その黒板さえしっかり写せないということになりかねません。

まずは、「ノートには、心が動いたことを書くんだよ」と声かけをしてあげてください。それを意識することで、先生のお話や友だちの意見を聞こうという気持ちになり、また、自ら考えるようになっていきます。

ノートは、黒板さえ写せばいいというものではありません。何を理解し、何がわからなかったのか。その思いを記すことも、とても大切なのです。

「黒板マネロボット」ではなくよく見てよく聞いて書く

ひと言日記も役に立つ

ある東大生のノートには、「赤いチェックのシャツを着ている」といった、その日の先生の様子が書かれていました。あとになって、「先生が赤のチェックのシャツを着ていたときに、○○を勉強したな」と思い出すのに役立ったそうです。

「心が動くとき」のあいうえお